

生き物とのふれあいを通して

ほし組 西本佳恵

ほし組では今、いろんな生き物を飼っています。生き物には大変興味を持っている子が多い今年のほし組さんですが、当初は捕まえて飼育ケースに入れてほったらかし…といったパターンがほとんどでした。収集するのは子どもたちの本能で、興味を持ち集めることは決して悪いことではありません。ただし石ころや葉っぱとは全く違って、その集めたものに僕たち私たちと同じ“命”があることを強く感じてもらいたいと思いました。その都度何度もそのケースに入れた生き物をどうしたいのかを尋ね(ほぼ全員が飼うと言う)、一緒に図鑑を広げて生態を調べたり、その生き物に適したお家を作ってあげたり、もちろんお家のお掃除、えさをあげることは「忘れちゃった…」では済まされないことも話し合いました。飼うということがどういうことなのか、生き物をケースに閉じ込めてしまうことがどういうことになるのかをたくさん体験してもらいました。その間、死に直面する経験も経てようやく今、登園したら飼育ケースをのぞいて、生き物たちの様子を観察したり、お家のお掃除をすることが習慣化されてきました。かたつむり、かえる、ざりがに、くわがたむし、あげはちょう幼虫、もんしろちょう幼虫、てんとうむし幼虫、だんごむし、などです。特にざりがにやかえるはたくさん触れ合った経験から子どもたちの思い入れも強く、生き物の気持ちを考えたらもとの広いお池に逃がしてあげたい、けれどまだまだ友達でいたい、いなくなったら寂しいといった複雑な気持ちの葛藤をクラスの話し合いの中で素直に言いあえる時間を持てたことも貴重な経験となりました。

田植えでは17匹のかえるを連れて帰ってきましたがその中で1匹だけ緑色のあまがえるがいました。そのあまがえるに「みどりちゃん」と名前を付け、毎日ビニール袋を手にみどりちゃんの餌取りに励みかわいがっていました。けれどもある日大事件が起きました。大好きなみどりちゃんが少しだけ大きなかえるに食べられてしまったのです。子どもたちも大変ショックを受け、がっくりうなだれていましたが「大きいかえるもお腹が空きすぎて我慢できひんかったんや…。食べてしまったかえるを一方向的に責めないでそれぞれの気持ちを考えることができたことに4月からの大きな成長を感じました。その後、クラスで話し合い、かえるたちは元住んでいた田んぼに帰すことができました。

年長児といえどまだまだ幼い子どもたちが、さらに自分たちより小さく弱い生き物の命を守り育てる“責任”を感じるこれらの経験が、今後まわりの人々に対するまなざしにつながっていくことを信じて、こらからも命とのふれあいは大切に取り上げていきたいと考えています。